

2. 建学の精神と本学の教育方針

東大阪大学短期大学部は、学校法人村上学園が経営する短期大学である。

本学は昭和40年4月、村上学園が創立25周年を迎えるにあたり、地域社会の強い要望にこたえて創立された女子の短期大学として出発したが、更なる発展のために、開かれた学園として、平成12年度から男女共学となり、平成15年4月東大阪大学の開設にともない東大阪大学短期大学部に名称変更した。

開学の祖、村上平一郎先生が学園の設立を志されたのは、「健康にして聡明、情操豊かにして強い生活力を持った人材を育成する」ためであり、この目標を生かすべく、“萬物感謝・質実勤労・自他敬愛”の学園訓を掲げた。この建学の精神は時代の変化を超えて普遍性を持つものであり、本学が実践に努めている「学問を通して人間をつくる教育」の支柱となっている。

本学の使命は、建学の精神を継承し、学則第1条(目的)・第5条の2(各学科の人材養成目的)に従い、一般教養並びに専門科目に関する教育と研究を通じて、社会の良き形成者を育成し、世界文化の発展と人類福祉の向上に貢献することにあるのはいうまでもない。

すべての学生が、本学に学ぶものの使命と責任を自覚し、稔りの多い2年間の学生生活を送るよう、心から期待する。

教育目的

本学は、教育基本法の示すところに従い、村上学園建学の精神と伝統に基づき、一般教養とともに健康栄養並びに幼児教育に関する実際的な専門の学芸を授け、家庭・社会の良き形成者を育成することを目的とする。

教育目標

「学問を通して人間を作る教育」の実践を図り、知識や技術に偏重することなく、広く社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。

学科の方針

【実践食物学科】

- すべてのことに感謝の気持ちを持ちながら、健康を維持するために食生活全般に興味・関心を持つことのできる人間を育てる。
- 常に向上心を持って努力し、多様な分野で広い視野をもって活躍できる栄養士を養成する。
- 自分を大切に健康維持に努めるとともに、他の人にも心を配って社会に寄与・貢献できる人材を育てる。

【実践保育学科】

- 人間が生きていくことの意味を伝え、自然に対する畏敬の念を抱き、それを守り、科学や文化、芸術に対する感受性を伸ばすことのできる人間を育てる。
- 勉強や仕事をすることは、即ち文化の継承だとの認識に立ち、物を大切に、健康の大切さを認識し、精神的な豊かさの重要性を伝えられる人間を育てる。
- 世界には多様な価値観がある事を教え、差別やいじめを許さない心を育て、自分の大切さ、ひいては他人を理解することの大切さを伝えられる人間を育てる。

【介護福祉学科】

- 介護業界が深刻な人材不足という社会的問題を抱えている中で、介護保険を中心とした制度を理解し、介護人材としての教養を備える。
- 介護の考え方・コミュニケーション・計画立案といった介護の基本を確実に習得した人材を養成する。